

IAUD Newsletter vol.12 第9号(2019年12月号)

1. 第3回 IAUD 学生コンペ 結果発表..... 1
2. UD+プロジェクト 先進事例視察報告..... 4
3. Good Practices 2019 応募締切延長..... 6
4. IAUD 国際デザイン賞 2019 表彰式開催..... 7
5. IAUD 12月の予定..... 7



未来の新たな暮らしと住宅を提案

第3回 IAUD学生コンペ「2025年以降の日本の暮らしと住まい『UD+』のプロトタイプを考える」結果発表

誰もが心豊かに暮らせる暮らしと住まいづくりを目標に、「UD+（プラス）」の考えを推進しているUD+プロジェクトは、学生の皆さんにUD+の発想による斬新な提案を募る第3回IAUD住宅学生コンペ「2025年以降の日本の暮らしと住まい『UD+』のプロトタイプを考える」を開催しました。

今回も日本全国の熱心な学生からエントリーがあり、審査委員会による審査の結果、「入賞」1件、「佳作」2件、「テーマ賞」1件を選定しました。

今号のNewsletterでは、第3回学生コンペ開催について同PJの宮脇伸歩主査が報告します。



審査会の様子(東京・IAUD サロン)

これからの日本の暮らしと住宅を考える

同PJは誰もが心豊かに暮らせる暮らしと住まいづくりを目標に、様々な視点から「楽しいUD」の実現を目指しています。

そのひとつとして、UDの基本である「身体的・心理的なストレスのない状態を目指す」ことだけに留まらず、「身体的、心理的に適正な負荷(刺激)を与えることで、機能の低下を防ぎさらに向上させる」など、+αの発想を加えることで、より快適で達成感がある暮らしを実現することを目標とした「UD+」の考えを推進しています。

そして、超高齢化社会が進み、2025年に国民の3人に1人が65歳以上になる「2025年問題」に直面している日本を見据え、人々を活性化させる仕掛けを含んだ新たな暮らしとコミュニティ、住宅のプロトタイプを制作するために、今回の学生コンペを開催しました。

6月からIAUDのサイト上で募集し、従来の制約にとられないフレッシュで斬新な住まいと暮らし方の提案を期待したところ、全国から10件の応募がありました。

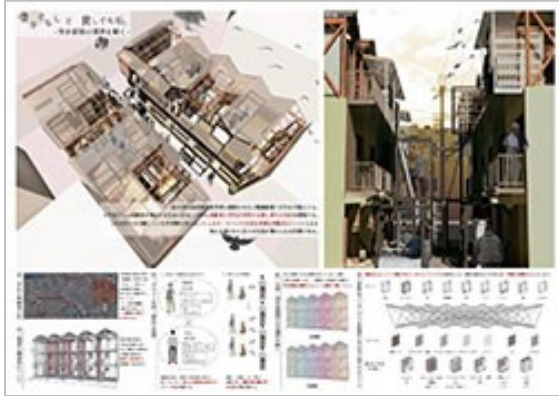
UD専門家と同PJメンバーからなる審査委員会による厳正且つ公正な審査の結果、「グランプリ」対象なし、「入賞」1件、「佳作」2件、「テーマ賞」1件を選定し、11月25日(月)にIAUDのサイト上で結果を発表しました。

第3回 IAUD住宅学生コンペ結果

■グランプリ:該当なし

■入賞:1点

「得意をシェアする共栄住宅」 佐賀大学大学院 峰 雄大



誰しも得意なこと、苦手なことがある。将来、会社を経由せず個人同士で仕事を依頼し合う時代がくるのではないだろうか。

まずは近いもの同士から。本提案は健常者、高齢者、障害者が入り混じった共同住宅で、得意をシェアしながら人と繋がる住宅を提案する。

■佳作:2点

「借りぐらしと貸しぐらし」 大阪市立大学大学院 樋渡 聖、芝浦工業大学大学院 梅本 晟司



6年後さらに高齢者が増加するとみられる東大阪市で、30年前の高度経済成長期に建設された三階連続建て住宅を対象に、高齢者と学生が共存する貸し借りの生活を提案する。

これは、住宅を分断していた共有壁を取っ払い、シェルターユニットを含む多様な可動式ユニットによる、安心と喜びから日々の生活が豊かになる計画である。

「yurikago」 芝浦工業大学 Archer(瀬口 竜汰、木村 友香、中村 晟宏、井出 岳、米延 美咲)



現代日本において少子高齢化が社会問題となっており、現状が改善されなければこの問題は深刻化する一方だろう。これまでの育児環境を見直し、育児しやすい社会を構築していく必要がある。

そんな中、高級ブランド店が立ち並ぶ東京都南青山の児童相談所建設問題が世間を騒がせた。

私たちはこの問題に関する情報をAI技術を用いながら分析し、ユーザーが心理的に心地よく快適に過ごせる、地域に根ざした新たな児童相談所のあり方を提案する。

■テーマ賞:1点

「ドアの声、音の階段」 日本福祉大学 砂田 ひかる



住空間における心理的な障害のひとつに、日常生活で引き起こされる物音がある。その対応策として、これまでは音が出ないようにする事や、音を鳴らさせないためにそのもの自体を触らせない事が多く見受けられた。

本提案では、感情をコントロールしづらい人にとって、それでは余計に感情を抑え込む事になり危険だと仮定し、感情をやわらかくコントロールする最終手段として、逆に音を出しても程よく心地の良い音色に転用させることを試みる。

コミュニティのありようを考える提案も

古瀬敏審査委員長 (IAUD理事長／静岡文化芸術大学 名誉教授)は審査総評として、「今回はこれまでの住宅中心から若干変えて、募集要綱に『住宅に留まらない、暮らしと住まい』という表現を用いたことから、個別の住宅のデザインではなく、コミュニティのありようを考える提案が出てきた。また、前回まではUDや防災の視点を強調している応募案がやや目立っていたが、今回はそれらがさらりとまとめられているように思われた。さらに、さまざまな可能性を考える切り口として五感に訴えるとして匂いと音をデザインに組み込む提案も出てきたのも特筆できる」とコメントしました。



古瀬審査委員長

これからの日本のコミュニティのプロトタイプ制作へ

皆様のご協力・ご支援により、今回も滞りなく終えることができました。これから表彰式の開催を計画していきます。

今後はこれまで開催した3回の学生コンペを振り返り、目標としてきた新たな暮らしとコミュニティ、住宅のプロトタイプについて成果報告をまとめる予定です。

※各受賞作品の紹介と審査委員講評は[こちら](#)もご覧ください。

誰もが働くことで幸せになる

活動報告:UD+プロジェクト先進事例視察

「楽しいUD、UD+(プラス)の研究」をテーマに活動しているUD+プロジェクトは、UDの先進事例視察として、10月11日(金)に障害者雇用に取り組んでいるリゾートトラスト株式会社東京本社(東京・渋谷)を視察しました。

当日は6人の同PJメンバーが参加し、視察後にはそれぞれの気づきをまとめました。

今号のNewsletterでは、当日の様子を同PJの室井哲也メンバーが報告します。

多様な働き方を研究

UD+PJは、2019年度に住空間PJとワークスタイルPJが合流して発足しました。「モチベーション×生活・環境・機会(きっかけ)=UD+」という概念を基盤として活動を推進し、2025年の「日本のコミュニティのプロトタイプ」制作を目標に新たなUDのあり方を研究しています。

旧ワークスタイルPJは合流前、将来の多様な働き方について考えるため、高齢者の働き方を調査研究し、主にシルバー人材センターを中心に取材してきました。

また、それ以前は視覚や聴覚、上肢下肢に障害のある人とどうコミュニケーションしていくのかという観点で、冊子「会議のUD」をまとめています。これは、誰もがコミュニケーションをとれる環境、誰もが確実にアクセスできる機器、誰もが安心して安全に行ける環境、という「会議のUD3原則」を打ち出し、冊子形式でまとめたものです

しかし、これまでの活動では知的・精神障害に関する情報収集が足りていないという反省に立ち、2018年2月に東京都産業労働局雇用就業部を訪問し、都内の中小企業での知的・精神障害に関する雇用状況や課題などをお話していただきました。

そして、障害者雇用に関心な企業として、2017年度に東京都から「障害者雇用エクセレントカンパニー賞」を受賞したリゾートトラスト(株)を紹介していただきました。

障害者の就労はUD+の考え方ともマッチしており、今回視察することになりました。



冊子「会議のUD」

障害者雇用率 3.04%

リゾートトラスト(株)は、会員制のホテルやレストラン、ゴルフ場、メディカル・シニア施設などを運営しており、2006年から障害者雇用を本格的に始めました。

現在では東京や横浜の事務支援センターだけでなく、名古屋や大阪など全国各地の現場で雇用しており、障害者雇用率も3.04%となっています。

今回訪問した東京事務支援センターでは83人の障害者が働いており、その多くが知的・精神障害者です。

サポートスタッフは12名で、当日はリーダーである人事企画部CSR推進室東京・横浜事務支援課課長の北沢健氏にお話を伺いました。

※リゾートトラスト(株)の詳細は[こちら](#)をご覧ください。



北沢氏(写真左)から説明を受ける参加者

直接雇用で働く

障害者は特例子会社ではなく、本社の人事企画部に直接雇用されています。業務は 250 種類あり、本人の特性や能力に合わせた業務内容になっており、会社の業務内容の変化や拡大に対して素早く対応できるよう直接雇用をしています。

事務支援センターでは、障害者が業務委託など外部に委託しにくい多品種少ロットの業務を担当することで、会社にとって不可欠な存在にまで成長しています。例えば、契約書の内製化によって在庫や倉庫代が削減できました。

採用は学校や支援機関からの紹介です。就労後も会社と保護者、学校や支援機関との強い連携が保たれており、交流会の実施や勤務に関する日誌の交換も行なっています。

初めは 1 日 6.5 時間勤務のパート社員として採用しますが、勤務時間を延ばしたり、支援が不要になった段階で 8 時間勤務の正社員に登用されたり、逆に通勤ラッシュを避けるために 4.5 時間勤務を選択する人もいます。

面談でうまく伝えられない人は、支援機関が働く状況や姿勢を動画で撮影することで、採用を判断することもあるそうです。



開放的な空間の職場

多種多様な業務を遂行

見学したオフィスでは、ダイレクトメールやホテルのおもてなしカードの作成、化粧品サンプルの梱包、PC 作業での名刺やポスターの作成、入力データのチェックなどの仕事をしていました。

私たちが近くを通りかかると、皆さんから朗らかに「こんにちは」と挨拶されたのが印象的でした。

今回は見学できませんでしたが、ホテルの現場では客室の清掃やユーティリティーのセッティングなどの仕事をしているそうです。

業務内容の変化や拡大のため、仕事の内容は変わっています。例えば、一昔前に比べて PC の業務は増えましたが、近年では RPA(ロボットによる業務の自動化)の導入で、単純な PC 作業は逆に減っているそうです。



ダイレクトメール作成の様子

現場での細やかな配慮と工夫

リゾートトラスト(株)では、障害者が働きやすく最大限の成果が出せるよう様々な配慮がされています。

就業後の対応としては、月 1 回通院が必要な障害者に対して有休とは別に通院休暇を付与しています。

自分で体調を言えない人も多く、熱があっても入社してしまうこともあるため、スマートフォンでその日の状態を送る仕組みも採用しています。

また、支援機関と保護者との年に1回の面談や、勤務状況を本人が家族に説明できないため参観会の開催、日常は日誌で保護者と連絡をしています。

現場で作業する上での様々な工夫も多く、例えば、業務全体をわかりやすくホワイトボードで管理し、視覚的に把握できるようになっています。作業マニュアルは個々の障害特性に合わせ使いやすくするため本人が作成したり、忘れ物を防ぐためのチェック表も利用しています。

さらに、無意識に大声になってしまう人に対して音量を知らせるアプリや、人前での口頭の注意に拒否感を持つ人に対するの注意カード、休憩に対して過度に遠慮勝ちになってしまう人向けの休憩申請カードも利用しています。



複雑な形状の折り紙も作成

障害者も自立し能力を社会に還元

視察後、参加者全員で印象や気づきを共有し以下のとおりまとめました。

- ・職場は一般の人事部門と隣接しており、明るく開放的な職場空間。私たちがそばを通りかかると、皆さんから明るい挨拶をいただいたのが印象的。
- ・コミュニケーションが難しい社員もいるとのことだが、皆さんが業務に没頭していた。
- ・年月日で曜日を当てる、郵便番号を覚えている、形を見ただけで折り紙が折れるなど、特殊な才能を持っている人に驚いた。
- ・所長やサポートスタッフが個々の特性を理解し、きめ細やかに工夫していると実感した。
- ・障害がありながらも自立し、収入を得て、税を負担する立場になり、能力を社会に還元できていることに満足している姿は素晴らしい。
- ・障害者、健常者に限らず、働く人が持っている力を引き出すことが企業として重要。

新たな UD を考察

UD+PJ では、今後も先進事例の視察を通じて、UD+の視点から従来の分野を横断する新しいUDについて考えていきます。



すべての人々のための優れたデザインを募集 Good Practices 2019 応募締切延長

スペイン・バルセロナの友好団体 Design for All Foundation は、すべての人々のためにデザインされたプロジェクトや製品、サービスを表彰する「Good Practices 2019」を開催します。

Best Practices に選定された取り組みは、2020年に開催予定の Design for All Foundation Awards 2020 で表彰されます。

この度、締め切りが2020年2月21日(金)まで延長されました。多くの方の応募をお待ちしています。

※「第10回 International Design for All Foundation Good Practices 2019」詳細は[こちら](#)をご覧ください。



革新的な UD 活動や提案を表彰

「IAUD 国際デザイン賞 2019」表彰式開催のご案内

IAUD は一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて特に顕著な活動を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2019」の表彰式を、12 月 18 日(水)14 時 20 分より東京ミッドタウン デザインハブ インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京・赤坂)で開催します。

今回も国内外の多数の企業・団体から多様な分野にわたりエントリーがあり、当日は海外 5 か国(タイ・スペイン・ドイツ・スイス・韓国)を含めた受賞者が表彰されます。

また、「大賞」「金賞」の取り組みのプレゼンテーションも行われます。ぜひ皆様のご出席をお待ちしております。

ご参加希望の方は、12 月 17 日(火)13 時まで info@iaud.net までお申し込みください。



「IAUD 国際デザイン賞 2018」表彰式の様子
(2019 年 3 月、タイ・バンコク)



2019 年 12 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
2	3	4	5	6	7	1 / 8
9	10	11	12 13:00~ 衣の PJ @IAUD サロン	13	14	15
16	17	18 14:20~ IAUD 国際デザイン賞 2019 表彰式 @インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	19 15:30~ 研究部会 @IAUD サロン	20	21	22
23 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5
事務局・サロン 冬期休業						

次号は 2020 年 1 月上旬発行予定

特集: 理事長新年のご挨拶 / IAUD 国際デザイン賞 2019 結果発表及び表彰式開催報告 / Dubai Accessible Tourism International Summit 講演報告

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会

事務局: 〒225-0003 横浜市青葉区新石川 2-13-18-110

電話: 045-901-8420 FAX: 045-901-8417 e-mail: info@iaud.net